

ゴミ拾いはスポーツだ! スポGOMI大会

今年も開催!



「ゴミ拾いはスポーツだ!」の掛け声とともに腕を突き上げる参加者

大会には弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科の学生がスタッフとして参加した

スポGOMI大会とは?

～主催～
弘前市環境課
スポネット弘前
～取材～
第一生命株式会社
岩間由美様
村上秀子様

令和3年10月2日(土)、弘前市立観光館前の追手門広場にて、「ゴミ拾いはスポーツだ」という掛け声とともにスポGOMI大会。弘前が今年も開催された。本大会は、年齢や性別に関係なく環境問題について関心を持ってもらいたいという趣旨により全国各地で行われている。弘前市では、昨年に引き続き2回目の開催となった。

この大会は、3～5人でチームを組み、1時間という制限時間内で指定された範囲内のゴミ拾いをするものであり、その種類と重さをポイントに換算して競い合う。ゴミは、燃やせるごみ・燃やせないごみ・かんびん・ペットボトル・たばこの吸い殻に分別された。昨年から参加者が大幅に増え、24チーム計99名が参加したこと、拾われたゴミの量も総重量26・61kgと、前回を約12kg程度上回った。比較的ゴミが少ないと言われる弘前市でも、これだけ多くのゴミが拾い集められた。

ゴミを拾うだけではない
今回初めて大会に参加した岩間由美さんは、「この大会は、子供たちにとって勉強になるイベントでもある。ゴミを拾うことはもちろん、挨拶や会話を通じて地域の方と繋がる道徳の要素も含んでいるのではないかと話す。また、今回2度目の参加で普段から「ピリカ」というゴミ拾いアプリを使用しているという村上秀子さんは、「ゴミ拾いをしているときに地域の方から声をかけてもらえることが気持ち良い」と話す。

主催者の想い

本大会を主催した弘前市環境課の三上沙さんは、「ゴミを捨てない市民が増えてほしい」と願っている。また、今回から共催したスポネット弘前の鹿内葵さんは、「単発で終わる大会にはしたくない。取組をESD(持続可能な開発のための教育)に繋げたい」と話す。

全国でスポGOMI大会を運営する日本スポGOMI連盟は、SDGsの目標14(海の豊かさを守ろう)の達成を掲げている。さらに、この大会がこの世から無くなることをゴールとして活動している。

豪華景品も!

当日、参加者全員にタンブラー、保冷バッグ、食品の袋に貼ることができるワザありテープといった環境問題に配慮した記念品が贈られ、さらに、上位3チームには両手に余るほどの大きな景品が手渡された。コロナ禍で売り上げが伸び悩んでいる県産品の菓子や食品の詰め合わせであり「イベントを通じて少しでも県に還元したい」と景品が選ばれた。

編集後記

私自身もこの大会にスタッフとして参加し、チームに行した。子供から大人まで楽しんで取り組んでいる様子が見えた。しかしながら、地域によってゴミの種類や量に大きな違いがあった。この大会のゴールは大会が無くなること。ゴミを平気でポイ捨てする人の心に届いてほしい。

